

農村工学技術研修の開催について

技術移転部技術研修室

1. はじめに

令和4年度の農村工学技術研修については、計画していた17研修のうち、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が少ない4月～7月の期間に、座席間隔の確保や感染防止対策を徹底した上で、集合研修6コースとWeb講義として「ため池防災・減災技術研修」の1コースを開催し、計7コースを実施しました。8月以降、新型コロナ第7波の影響により現地実習や演習が主である4コースを中止、2コースを集合形式からオンライン形式に変更、2コースを10月以降に延期し実施するなどの対応を行い、合計13の研修を実施しました。

令和5年度の農村工学技術研修については、昨年度3回開催予定のうち1回が中止となった「基礎技術研修」は今年度も3回実施することとし、全17の研修を実施します。また、「中堅技術」と「農村振興係長A」については、受講対象者が違うものの、研修科目が同様のものが多いため、オンライン講義を同時開催にするなど、研修内容について見直しを行いました（[資料1](#)）。

なお、新型コロナウイルス感染防止対策については、感染症法5類に移行したことを踏まえ、政府の指針に沿った対応としますが、万が一集団感染（クラスター）が発生した場合、研修を中止せざるを得ないので、集団感染を防ぐための対策を行いつつ研修を実施していきます。

2. ため池防災・減災技術研修の実施

ため池防災・減災技術研修については、昨年度と同様Web形式（eラーニング）で実施しました。本研修は、①研修内容は、ため池決壊時の氾濫解析を行うソフト「SIPOND(エスアイポンド)」を使って氾濫解析を行い、その結果の妥当性と下流域の被災リスク等を検討した上で、GISソフトを用いて浸水想定区域図を作成する演習のみとする（講義、班別演習は行わない）、②研修生は、基盤地図情報（数値標高モデル）を国土地理院のサイトから取得し、SIPONDは送付されたドングル（USB）をPCに接続してインストールをするなど農工研から送る資料を見て各自で事前準備を行うとともに、演習も資料に沿って各自進める、③講師側は、担当するグループ（地域防災グループ）が事前準備の資料作成から研修期間中の問い合わせ対応をするとともに、共同研究においてSIPONDを開発したニタコンサルタント（株）の協力を得、技術研修室がロジを行う、という体制で実施しました。研修期間は5月15日～19日の5日間とし、研修生の参加人数は31人（都府県18人、土地連13人）でした。研修実施後の研修生からの意見として、良かったというコメントでは、「今回の研修が非常に参考になった。」「研修で学んだことを今後の業務に活かしていきたい。」「メールでの問い合わせに研修講師が丁寧に対応して頂き不安なく進められた。」などがありました。一方、苦労したというコメントとして、「職場のセキュリティ環境が厳しく個人（私用）のパソコンで対応した。」などがありました。研修生から頂いた意見を参考にし、より良い研修となるよう検討していきたいと考えています。

◇令和5年度 農村工学技術研修の概要
(農研機構 農村工学研究部門)

研修区分	研修コース	目 的	内 容	定 数	時 期	対 象 者	備 考
基礎技術研修	基礎技術 (年3回)	農村工学に関する基礎学力、基礎技術、基礎知識を習得し、農業農村整備事業に携わる若手職員としての資質の向上を図る	数学、水理学、土質力学、構造力学、鉄筋コンクリートの設計、測量等の講義、講義に関連した実験実習、事例研究等	各24名	(第1回) 6月5日～8月2日 (第2回) 9月4日～10月31日 (第3回) 9月4日～9月22日 10月30日～12月6日	国の職員であって、「一般職（高卒程度）」又は「一般職（大卒程度）」で採用され、農業農村整備の業務に従事している者で入省2～3年目程度の者。入省4年目以降の未受講者も対象 ※令和5年度は3回開催とするため、令和2～4年度に受講できなかった職員の積極的な申込みを求める	ハイブリッド形式 (第1回) 集 合：6月26日～7月14日 その他の日程はオンライン (第2回) 集 合：9月25日～10月13日 その他の日程はオンライン (第3回) 集 合：10月30日～11月17日 その他の日程はオンライン
中堅技術研修	中堅技術	農村工学に関する幅広い技術、知識を習得し、農業農村整備事業に携わる中堅職員としての資質の向上を図る	当部門の全領域の研究に関する講義、実習、事例研究等	20名	9月11日～9月22日	国、都道府県、独立行政法人、都道府県水士里ネット等の職員であって、農業農村整備関係の業務に概ね7年従事している者	ハイブリッド形式 オンライン：9月11日～9月15日 集 合：9月19日～9月22日 ※オンライン形式は農村振興係長Aと同時開催
	農村振興係長A	農業農村整備事業を推進するにあたっての企画立案能力の向上を図る	スマート農業技術、防災等の講義、事例研究等	20名	9月11日～9月15日	本年度に農林水産省農村振興局が主催する「係長A」研修の受講予定者	オンライン形式 ※中堅技術と同時開催
専門技術研修	※専門技術研修の対象者は、国、都道府県、独立行政法人、都道府県水士里ネット等の職員						
	ダム機能保全Ⅰ	ダム機能保全に係る専門的知識の習得により、指導的役割を担える技術者としての能力向上を図る	調査・設計・施工等の建設技術に関する講義	20名	5月29日～6月2日	ダムの安全管理や耐震性能照査等の業務に従事している者、従事予定の者、または本専門的知識を補完しようとする者	オンライン形式
	ダム機能保全Ⅱ		堤体の安全管理、耐震性能照査等に関する講義及びダム機能診断に関する現地実習等	20名	6月5日～6月8日	機能診断と耐震性能照査を中心に技術知識の習得しようとする者で、ダム機能保全Ⅰの修了者、またはダム知識を有している者	集合形式
	用水計画と河川協議	かんがい用水等の取水に必要な用水計画や河川協議に係る専門的知識の習得と事例研究や実践演習により、指導的役割を担える技術者としての能力向上を図る	用水計画、河川協議、水路システム、河川水利行政等に関する講義、河川協議の実務に関する事例研究及び実践演習等	30名	10月11日～10月20日	用水計画や河川協議に係る実務に従事している者、従事予定の者、または本専門的知識を補完しようとする者	ハイブリッド形式 オンライン：10月11日～10月13日 集 合：10月16日～10月20日
	土地地質	土地地質に係る専門的知識の習得により、指導的役割を担える技術者としての能力向上を図る	土地地質調査の基本、各種調査試験方法、関連事業等に関する講義、ボーリング調査実習及び物理探査実習、及び事例課題研究等	20名	7月3日～7月7日	土地地質の調査・設計・施工に係る実務に従事している者、従事予定の者、または本専門的知識を補完しようとする者	集合形式
	水利システム	水利システムに係る専門的知識の習得により、指導的役割を担える技術者としての能力向上を図る	農業用水利システムの利用、管理、機能診断、性能設計、水管理制御システム等に関する講義及び水路実験等	20名	7月31日～8月4日	水利システム関係の実務に従事している者、従事予定の者、または本専門的知識を補完しようとする者	集合形式
	農村計画・地域資源	農村計画及び農村の地域資源に係る専門的知識の習得により、指導的役割を担える技術者としての能力向上を図る	農村活性化、地域資源の利用、農村環境の保全に関する講義及び地理情報システムの活用実習等	20名	10月4日～10月6日	農村計画あるいは農村環境に係る実務に従事している者、従事予定の者、または本専門的知識を補完しようとする者	オンライン形式
	生態系保全	農村の生態系保全に係る専門的知識の習得により、指導的役割を担える技術者としての能力向上を図る	生態系配慮の技術指針に沿った内容の講義、環境調査手法に係る実習・演習及び発表討論等	20名	10月23日～10月27日	農村計画あるいは農村整備に係る実務に従事している者、従事予定の者、または本専門的知識を補完しようとする者	集合形式
	施設保全管理	農業水利施設等の施設保全管理に係る専門的知識の習得により、指導的役割を担える技術者としての能力向上を図る	農業用施設の耐久性照査、コンクリート構造物の保全管理等に関する講義、機能診断調査に関する実習、事例研究等	20名	7月18日～7月28日	施設保全管理に係る実務に従事している者、従事予定の者、または本専門的知識を補完しようとする者	ハイブリッド形式 オンライン：7月18日～7月21日 集 合：7月24日～7月28日
	経済効果Ⅰ・理論	効果算定・分析・評価に係る専門的知識の習得により、指導的役割を担える技術者としての能力向上を図る	費用対効果分析、政策評価、効果計測手法、各種経済効果の算定等に関する講義等	40名	6月19日～6月23日	農村振興施策に係る実務に従事している者、または従事予定の者	集合形式
	経済効果Ⅱ・実践演習		費用対効果分析等に関する講義、費用対効果分析のための各種効果算定の演習等	20名	11月13日～11月17日	農村振興施策に係る実務に従事している者、または当実務従事者と同程度の知識を有する者で、いずれも原則として「経済効果Ⅰ・理論」を修了している者	集合形式
	農村防災・減災技術指導者	農村防災全般及びため池の防災・減災技術に係る専門的知識の習得により、指導的役割を担える技術者としての能力向上を図る	農村や農地海岸の災害の防止・抑制、被災対応、関連法令・事業制度に関する講義、ため池氾濫解析及び減災対策に関する演習等	20名	5月22日～5月26日	農村防災施策に係る指導的実務に従事している者、または従事予定の者で、いずれも農業農村整備関係業務に概ね5年以上従事している者	集合形式
	ため池防災・減災技術	ため池の防災・減災技術に係る専門的知識の習得により、指導的役割を担える技術者としての能力向上を図る	ため池減災技術としてハザードマップ作成時の浸水域予測方法と浸水想定区域作成に関する演習等	60名	5月15日～5月19日	ため池の防災・減災対策に係る実務に従事している者、または従事予定の者なお、都道府県職員及び都道府県水士里ネットの職員を主な対象者とする	オンライン形式

注1：集合研修の実施場所は、基本的に筑波産学連携支援センターもしくは農村工学研究部門本館で行う。

[メルマガ記事へ戻る](#)